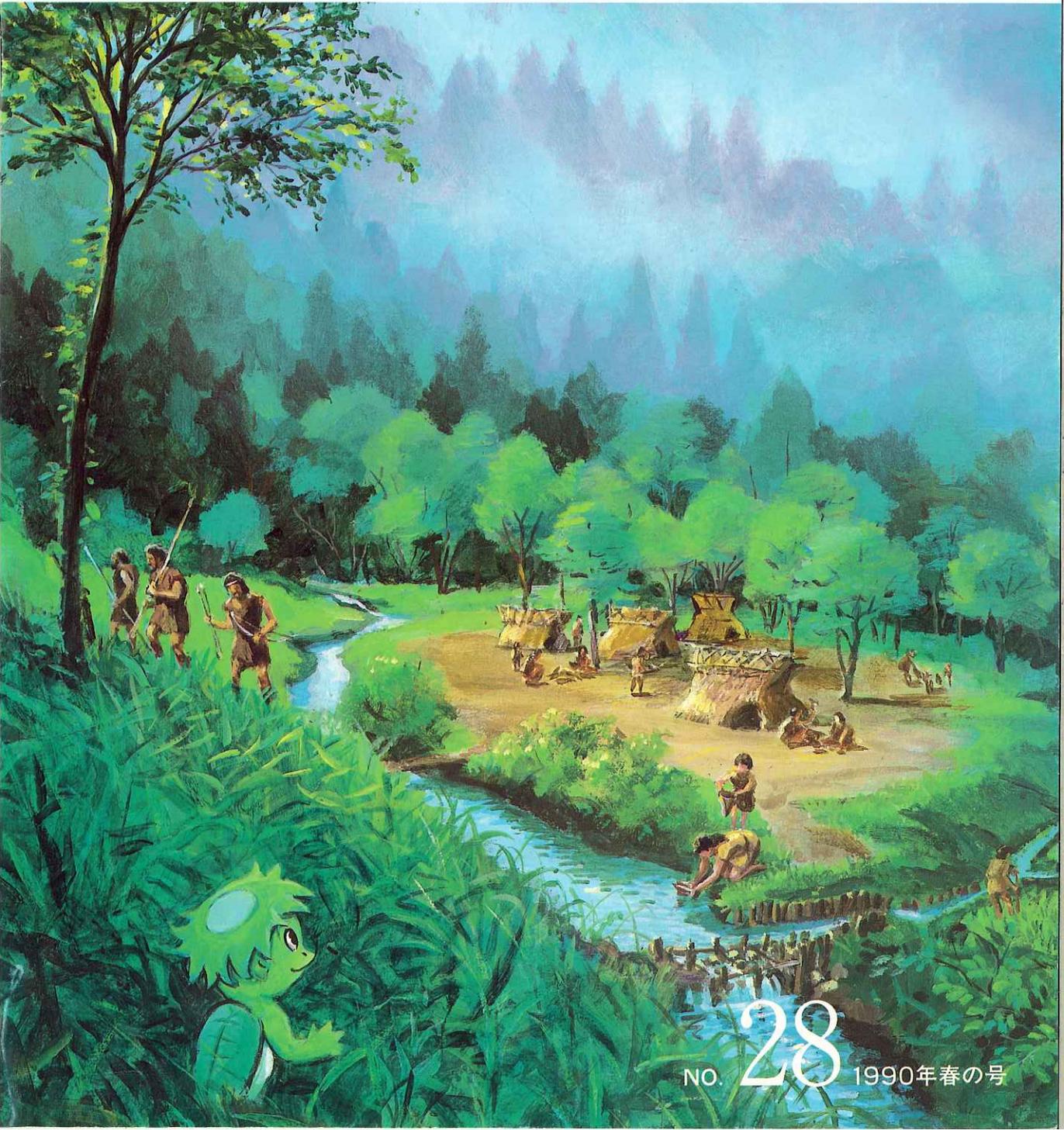
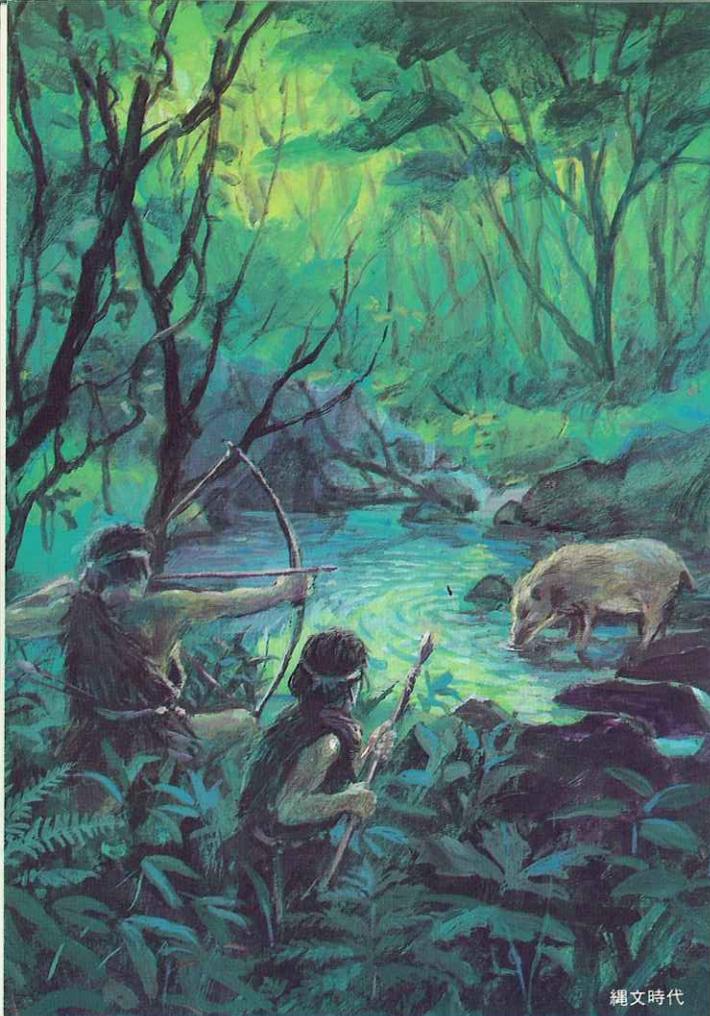


川の本

『川と人びとの暮らし』—①川によりそって生まれた古代社会—





縄文時代

水がなくては生きてはいけない

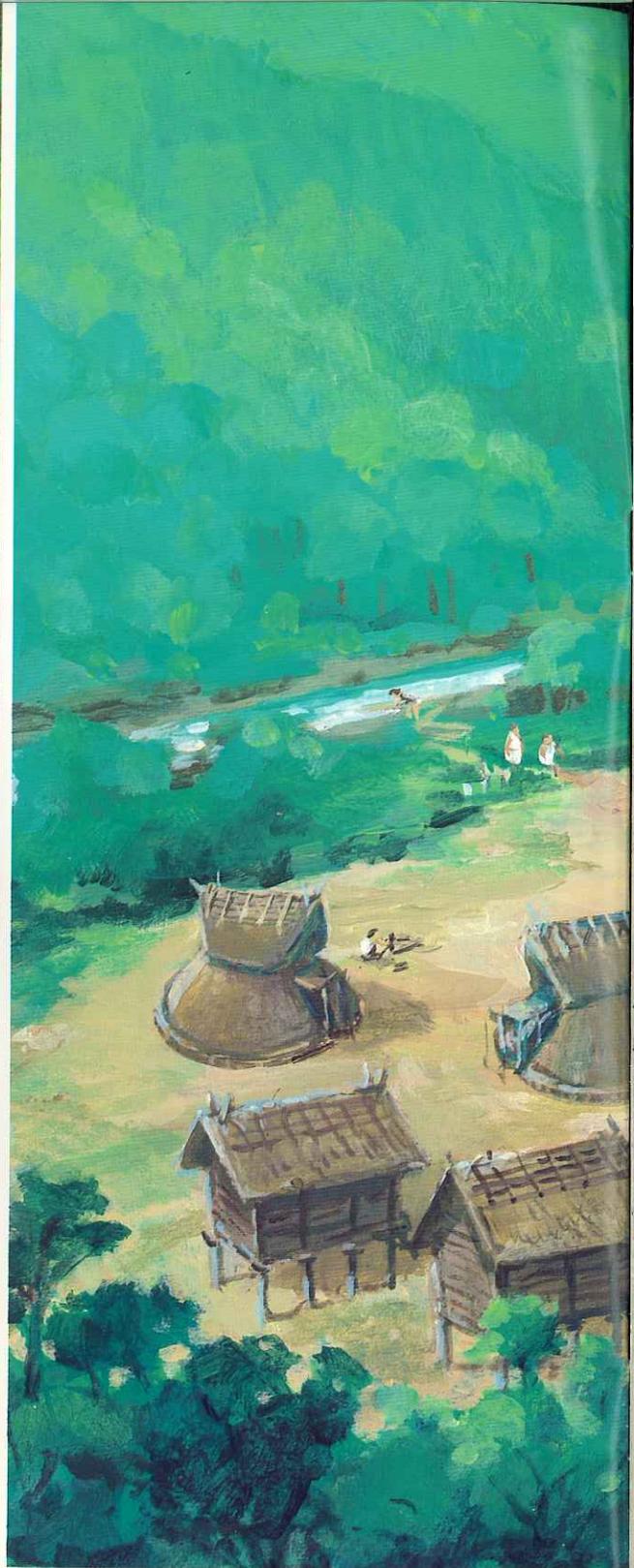
「あっ、いたぞ、いまのうちに仕留めるんだ」
水を飲みに来た「いのしし」をねらっているのは、
縄文時代の人たちです。

生きものはみな、水がなくては、生きていけません。
でも木がおい茂げる山の中では、かならず、どこか
で水が湧き出ています。

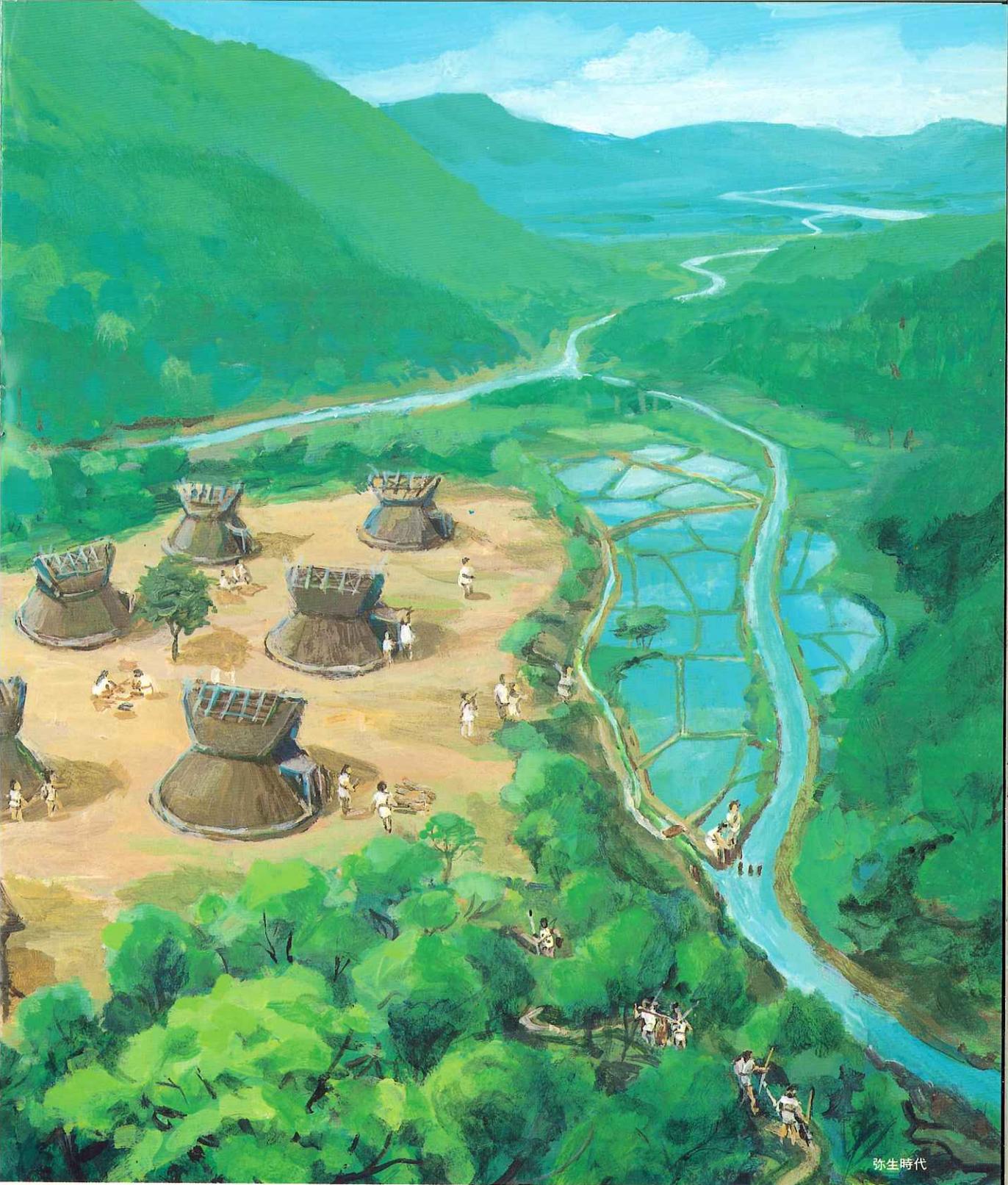
雨が降ると、雨水はたつぷりと山に吸い込まれます。
その水は、土の中を長い時間をかけてゆっくりと通
りぬけ、少しずつ、あちらこちらから湧き出して小
さな流れとなり谷川へ集まってきます。こうして、
お天気の日でも谷川の水は元気よく流れているので
す。この水は、とてもきれいな水です。しかもおい
しい水です。人や動物にとって、この水は、生命の
水でした。

縄文時代の人びとは、山に住み、狩りや、木の実に
たよった生活をしていましたが、だんだん人が増え
てくると、食糧が足りなくなってきました。

やがて縄文時代の終りごろ、海を渡って大陸から稲
作が伝わってきました。



自分たちの手で食べ物を作ることをおぼえた人びと
は、いつも水が流れている谷地の湿地を利用して稲
作をはじめました。お米はおいしくて、たくわえる
ことができます。その上、努力すればいくらでも、
つくることができます。しかしお米をたくさん作る



弥生時代

ためには、もっと広い土地が必要です。

「もっとたくさんのお米を作りたい」そう思った人びとは、広い大地を求めて、山を降り、平野へと出てきたのです。そこには、おだやかに流れる川と、豊かな土地がありました。人びとは、水を引きやす

い小川のほとりに住み、広い土地に水田を開き、稲を育てはじめました。こうして弥生時代がはじまったのです。

しかし、この恵みをもたらす川も、いつもおだやかに流れていたわけではありませんでした。



おそろしい洪水

「わあ、大変だあ、水があふれてきたぞう」
「ぐずぐずするなつ、丘の上まで逃げるんだ」
「さあ、みんな早くしろ」

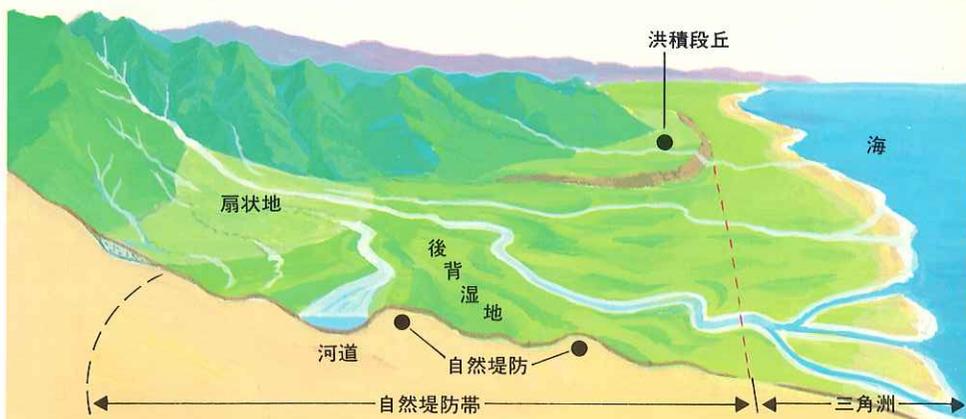
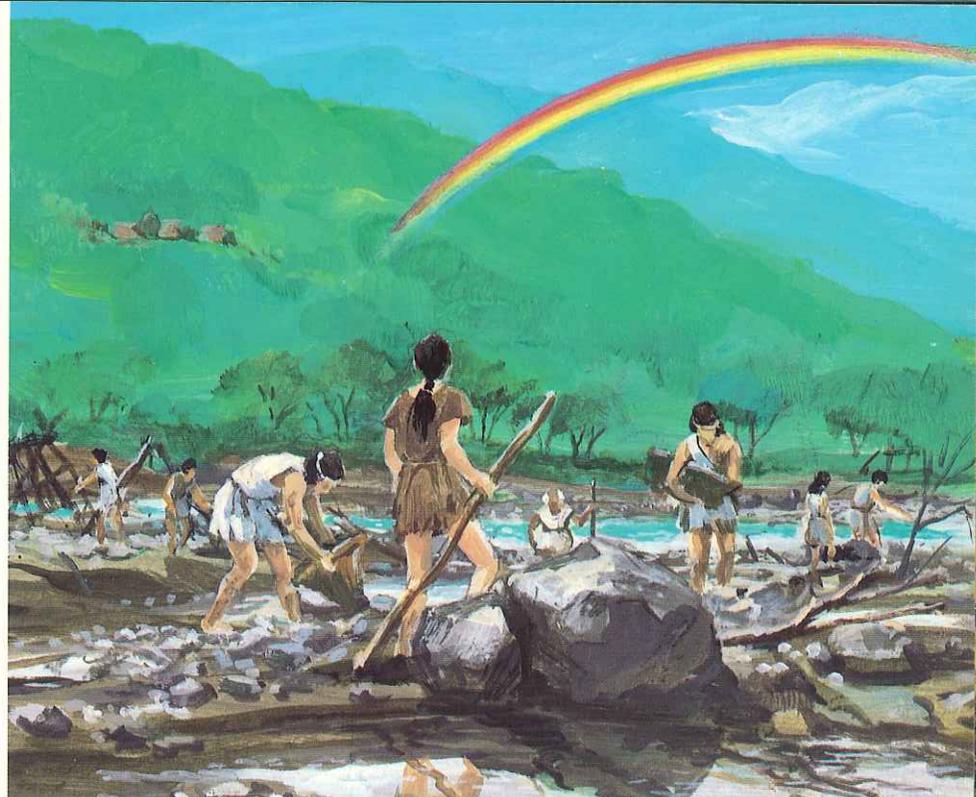
人びとのあわただしい叫び声がします。たたきつけるような豪雨が降り、谷川の水は滝のようになって山からおりてきました。ひとたびこうなると、ふだん小さかった川も、水があふれて太いあばれ川に変身します。みるみるうちに水田は流され、川沿いの住居は今にも流されそうです。

あばれ川となった川は、ようしゃなく牙をむき、人びとをおそいました。静岡の登呂遺跡などは、あまりにも川に近い平地だったため、ムラもろとも流され、土砂にうめつくされたのでした。

もともと川は、はるか大昔から洪水をくり返し、山を削り、谷をうめ、土砂をおし流し、平野をつくってきたのです。このようにしてできた平野に、人びとは水田を開き住みついたので。しかし、そのころの川には堤防はありませんから、今のような水防活動もできず、洪水に襲われることもしかたのないことでした。

洪水が去ったあとには、大きな石まで、ごろごろしています。苦勞して開こんし、切り開いてきた水田もすっかり荒地になってしまいました。でも人びとはへこたれません。新しい土地をみつめて水田を開き、みんなで力をあわせてもっとよいムラを作ろうと考えたのです。

水防のことは次の号で勉強しましょう。



登呂遺跡



静岡県で発掘された登呂遺跡は、今からおよそ1800年前のもので、弥生時代の代表的なムラのひとつです。

このムラは、すぐ横を流れる安倍川にそってつくられており、ここには60～70人の人たちが住んでいたと考えられています。

12戸の家と床の高い倉庫が2つあり、この南側に水田が広がっています。田の畦みちを板や木杭でくずれないように補強したり、用水路（水田に水を引くための人工の川）がつくられています。

このほか、農具や、まが玉、布地、組み立て式の腰掛けなど、貴重な文化遺産がたくさん発見されています。このムラは、あまりにも川に近かったため、のちに洪水にあい、埋めつくされたのですが、今では復元され特別史跡として保存されています。



自然の川と上手につき合う

堤防のない自然の川は、ときには洪水をおこし人びとを苦しめることがありましたが、ふだんは大切な水を運んでくれる恵みの川です。この自然の川と上手につき合うために、人びとは、川からはなれずにくらす方法を考えました。住居は洪水に流されないように、自然の丘や台地、川の流れに沿ってできた小高い土地（自然堤防といいます）などにつくりました。水田は、ムラに近く、川から水を引きやすいところにつくりました。

水田のあぜみちを木杭でかこんだり、用水を引いたり、水路に水をせきとめる堰^{せき}をつくったり、貯水池まで掘りました。こうした知恵と努力のおかげでお米も以前よりたくさんとることができるようになりました。みのり豊かな秋には人びとはさぞ楽しそうに、取り入れにはげんだことでしょうね。このようにして、人びとは、川によりそい川の恵みを利用し、一方では、あばれ川から自分たちの身を守るために知恵をしぼり、農耕を中心とした社会を築きはじめてたのでした。



ちょっと遊ぼうコーナー

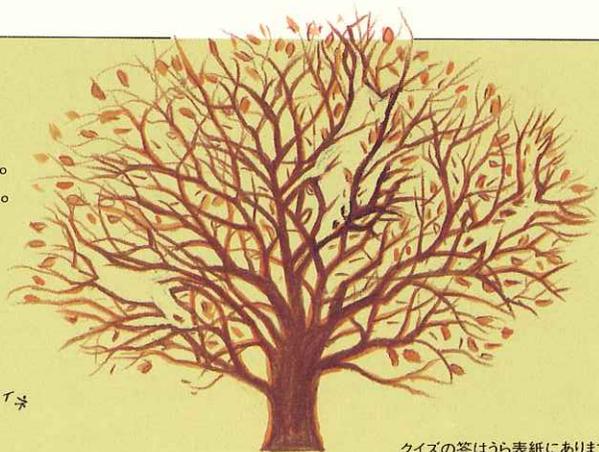
かくし絵

大きな樹ですね。この中に、動物たちが逃げ込みました。
枝の線をうまくたどれば、3カ所に動物がかくれています。
さあ、どんな動物がかくれているか
みつけてください。

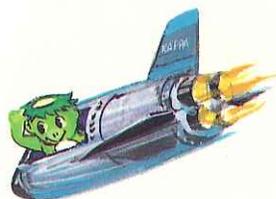
ドコニカクシタノクメ



シラマイネ



クイズの答はうら表紙にあります。



地球は、水の惑星といわれています。宇宙から見ると地球は青く光って、とても美しい星だそうです。水がいっぱいある星なのですね。その水のほとんどが海水で、淡水は、全体の3%そこそこです。しかも私たちが使える水は、淡水の一部だけです。水は大切にしたいですね。

地球上の水の存在量

態 様	体 積 (km ³)	%
[塩水]		
海洋	1,349,929,000	97.50
塩水湖	94,000	0.007
[淡水]		
水	24,230,000	1.75
水化作用で結合した水		
淡水湖	125,000	0.009
川	1,200	0.0001
土壌水	25,000	0.002
地下水	4,500,000	0.72
浅層	5,600,000	
[水蒸気]		
大気中の水	12,600	0.001
[生物]		
動物	600	0.0001
植物	600	
総 計	1,384,518,000	100
備 考	水の体積に換算した値、Shumskiyらによる	水の総量に対するパーセント

権根 勇「水の循環」共立出版 (1973)

かくし絵の答 うさぎ しか りす。

河川環境管理財団は
みんなに愛される川であるように、こんな仕事をしています。

- * よりよい水辺のプランニング
- * 楽しく安全に遊べる川づくり
- * 川をきれいに、川を愛する心を育ぐくむ運動
- * 未来の水辺を考えた調査や研究
- * せせらぎ・ふれあい基金



財団 河川環境管理財団

(〒160) 東京都新宿区新宿5丁目17番5号
TEL. (03) 200-5677(代表)

監修 建設省河川局